



女性の活躍推進に必要な わたしの かかりつけ医

産婦人科医 臨床心理士
吉野 一枝



<吉野一枝>
1954年東京生まれ。
高校卒業後、コマーシャル制作の会社勤務を経て、32歳で帝京大学医学部入学。卒業後、東京大学医学部産科婦人科学教室に入局。母子愛育会愛育病院、長野赤十字病院、藤枝市立総合病院などの産婦人科に派遣勤務。この間、東京警察病院にて麻酔科研修。
2001年 臨床心理士資格取得。
2003年 よしの女性診療所を開院。

日本産科婦人科学会認定医
日本臨床心理士資格認定協会会員

よしの女性診療所

〒東京都中野区江原町3-35-8
グローリオ中野新江古田1F
TEL 03-5996-6101



診察室は、待合室からいちばん遠く、壁と扉の防音を強化してあります。内診台と診察ベッドも診察室にありますので、完全なプライベートが保たれます。

婦人科をかかりつけ医に

婦人科の疾患は、がんだけでなく全般においてすごくメンタルと結びついていると感じている吉野先生。臨床心理士の資格を取得し、仕事や生活などの環境もひっくり返すほどの環境を行い、治療だけでなくそこから何故病気になるか？なども患者さんと一緒に考え、人を診る先生”と患者さんから厚い信頼を得ている。

私が研修医時代は、がんを本人にも告知しない、緩和ケアも無い時代ですから家族もどうしていい

からです。

一度社会に出てから医者の世界に入りましたが、私の思い描いていた世界とは違いました。

医者が頂点のピラミッドではなく患者さんが中心にいて、看護師も医者も同等でなくては本来いけないのに医者が患者にアード、こーだと言っているのは間違い。治してやるみたいな医療、それはいい医療じゃないと思っています。それはシニバイツァーではないと笑。

私はがんの患者さんやご家族が「あと、どの位ですか？」と聞いて「何%の確率でこの位です」と答える医者はヤブ医者だと思っています

か分からず、苦しんでいました。アメリカにがんの精神療法、心理療法があることを知り、がん患者のケアを学ぶためにアメリカ、カナダと3カ月程行き、帰国後、臨床心理士の資格を取得しました。婦人科のがん患者に何かできないかなという気持ちからでしたが、ずっとやっていて気付いたのは婦人科の疾患はすごくメンタルと結びついているということでした。特に女性ホルモンはストレスに弱く、体だけ診るのではなく、その人の置かれている全ての環境を知ることが大切だということですね。

大学病院では、教授回診の前に

葉のDVです。人前で貶めるような発言もDVになります。夫婦の関係は大きく、「お前が怒らせるから俺はこうなった。お前のせいだ」みたいな言い方をされると、つい自分が悪いと思ひ込み、精神的に参ってしまい、それが更年期症状を強くするということがわかりました。長年そういう関係で夫婦関係が成り立っていたとしても、子育てなどで一段落すると二人の関係が浮き彫りにされ、更年期の時期と重なり、症状が強くなることもあり。更年期で眠れない、手が震えるなどの訴えも、よくよく聞くとDVが原因ということがわかっていきます。

近年は、出産年齢が高くなり、仕事・子育てが大変な一番ストレスが溜まりやすい時期と女性ホルモンが低下する更年期が重なる事があります。女性ホルモンは本当にストレスに弱いので、上手にお付き合いすることが大切です。

女性の場合はいろんな病気が

研修医が患者のデータを頭に入れておくのが通常です。でも、全然データは頭に入っていないので、この患者さんは離婚して子ども一人養育して大変な思いをしているとか、嫁姑問題とかそういう情報はしつかり頭に入っているのです、そういうことなら説明できます！みたいな笑。

環境の情報は大切だと無意識に思っていましたから、いろんな話を聞くとストレスもわかり、病気の根源がわかる気がしました。悩みが病気に関わっているのでは？という思いは大きかったですね。人に興味があったから医者になったというのが根底にあります。

高校の時、シニバイツァーの伝記を読んで感動して医者になる！と思ったのですが、国立大学医学部の受験を失敗して高卒のままプロダクションで、CM制作を数年やってからまた予備校に通いました。紆余曲折いろいろあって私が医者になったのは38歳になって

伴いますので、かかりつけの婦人科をもち、定期的なチェック。そして何かあった時に相談できる関係を作ってください。環境からくるストレスが病気の大きな要因になることも知っておいてほしいです。

「心と体はひとつ」なのです。

「患者中心の医療」をご存知ですか？ 医療の主体は医師ではなく患者という考えで、医師を頂点とするピラミッド型の医療から少しずつシフトしています。患者は自分の専門家として、医療者から得た情報と自分の価値観を合わせて患者自身が治療を選択します。まだ「患者中心の医療」の考えの医師は少ないと思っていましたが、吉野先生は医学生の間からとのこと。吉野先生みたいな医師が増えるよう、患者中心の医療を広めていきたいですね！吉野先生は、女性医療ネットワーク (<http://cnet.gr.jp/>) のメンバーです。女性医療ネットワークでは、女性健康学校ジョイ・ラボを開催しています。みなさまのご参加お待ちしております。

北 奈央子：現在、聖路加国際大学大学院博士後期過程在学中、女性医療ネットワーク広報、women's wellness shopを運営している。

ヘルスセラピー
北 奈央子のヒトコト